平成28年10月１日発行

第 20 号

東北大学川内記念講堂

会　報

東北大学教育学部
同窓会仙台支部

教育学研究科・教育学部とグローバル化

教育学研究科長・教育学部長　高　橋　　満

いま、大学はグローバル化の推進が強く求められています。東北大学も、「グローバルビジョン」を公表しています。そこでは、「学生が国際社会で力強く活躍できる人材として成長していく場を創出」することが、とくに重視されています。

教育学部・研究科も、さまざまな形で教育研究のグローバル化を推進してきました。2015年度現在、留学生数は、学部生で２名、修士が11名、博士が９名となっています。他方、学部在学中に海外の大学に長期留学する学生も毎年３～４名を数えます。さらに、国の特別経費を得て５年間「アジア共同学位開発プロジェクト」を推進してきました。これは2015年度で終了しましたが、引き続き「アジア教育指導者コース」を開催しています。とくに、一つの課題をめぐり、文化も、言語も異なる学生たちが一つのチームを編成し、調査や討議を通して考え方をまとめ、プレゼンテーションをする授業は刺激的な学習の機会となっています。

さらに、教育学部・研究科では、グローバルな研究課題として、「持続可能な地域社会のための教育」をいうテーマでインドネシア教育大学と共同研究を始めました。公民館は、すぐれて日本的な制度ですが、ユネスコをとおしてインドネシアはもちろん、ベトナム、カンボジア、タイなどのアジア地域から、中東、アフリカにまで広がりつつあります。日本の公民館は、これらの国々の政策や実践のモデルとして注目されています。この11月には、インドネシア教育大学から30名もの研究者が本学部・研究科を訪問し、研究上の交流を深める予定です。

東北大学は、その創立以来、「研究第一」の伝統、「門戸開放」の理念、「実学尊重」の精神を大切にしてきました。とくに、「門戸開放」の理念は、東北大学が多様な文化や価値観、バックグラウンドをもつ人たちの集う場となることをめざす考え方でもあります。グローバル化は新しい課題ではありますが、同時に、東北大学が歴史的に大切にしてきた理念を実現する機会でもあります。

恋愛百譚（1）

音楽コース時代の思い出

静田　一（すすむ）（25年入学）

音楽家だった父は、のちに、フレーベルやペスタロッチに心酔し、音楽を軸にした幼児教育にとり組み、半生を幼稚園経営と幼稚園教員（当時は保母）の養成に捧げた人だった。（注）

私はこの父の長男に生まれ、父と同じ曹洞宗の学林（旧制中学）を経、昭和25年に東北大の音楽のコースに入った。心ならずも、父に相似た道を歩んでいた。

大学では、生まれて初めて、男女共学を体験させられ、当初は大変戸惑ったものである。戦中派の私たちには、男女共学など、思いもよらぬもので、当初、同級の女子を見て、どぎまぎしたものであった。

しかし、同期の男の中には、一人達者な者がいて、女子学生中、もっとも美人の人を自分の恋人にし、あと６人女子を集めて、我々同級６人の男子にそれぞれあてがい、６つのカップルをつくったのである。

実は、これには、正当な理由があった。歌曲を唄う女子には、必ず、ピアノ伴奏者が必要で、いつも心の通った男の伴奏者が確保されていることは、その限りでは、好ましいことだった。

このカップルそれぞれに恋のきざしが見えたものの、恋が実ったとか、成婚に漕ぎ着けたとかいう、顕著な結果は聞いたことがない。

私はその数年後、音楽と幼児教育を志すひとと結婚し、いま、娘たちも私たちの仕事を継いでくれている。

（注）尊父・静田正志氏は、昭和３年発表の童謡「ペチカ」の作曲家として、知られる。作詞は北原白秋。

なお、大正12年発表の北原白秋作詞、山田耕筰作曲の童謡「ペチカ」とは別の作品である。静田正志氏作曲の「ペチカ」は哀愁の漂よう、曲想を異にする名作である。

恋愛百譚（2）

大学入学のころ

松崎　正人（25年入学）

昨年、転んで背中を打ち、首、腰の疼痛に悩まされた。この夏は、風邪のため、昨日まで殆ど食欲も無く、点滴を受けていた。今日、やっと元気をとり戻し、食事も普通にいただけるようになり、これから、そろそろ絵画の制作にとりかかろうと思っているところである。（注）

いま、思い出されるのは、少年時代のこと。南材木町小学校、旧制仙台一中から制度が変わって、そのまま一高に進み、一高美術部ではさかんに女性像を描いた。これは、やはり女性へのあこがれがあったからである。

一高の先輩の従妹に二女高生がおり、この人の仲間が何人も我が家に来、モデルをつとめてくれ、県高校美術展に入賞することができた。

同じ頃、女子商にいた従妹を描いた作品が、河北展に入選し、話題を呼んだ。

当時は、終戦直後のリベラルな空気があり、男女平等が謳われ、学校や地域では、さかんに、学生会や自治会がつくられ、青年男女の交流も活発だった。大学入学前後には、こうした会で、何人かの女性と知り合いになれ、青春を満喫できた。

１歳上のＹさんには、心からあこがれていた。彼女はやがて県外に嫁いで行ったが、これは、私の初恋といってよいであろう。

まもなく現われた２歳下のＩさんにも、ほのかな思いを抱いていたが、家庭科を卒業した彼女は、英語科のＳ君と結ばれた。

自らの恋を内に秘めながら、それぞれの友の恋の行方を淡々と眺めてゆくのも、今となれば、ロマンチックで良いものではある。

（注）松崎氏は美術専攻修了。

恋愛百譚（3）

展覧会での再会

石澤　友明（31年入学）

戦時中、疎開をしていた気仙沼の小学校時代、私は、全国児童絵画展に学校代表として、作品を出品したことがあった。東北大の美術専攻に入学する以前に、美術に関わったことは、後にも先にも、この小学校での入選だけであり、これが、将来美術に進む暗示になっていたのかもしれない。

私は美術が好きだったが、仙台の高校の３年上にいた兄が新聞部を作り、兄の卒業後、私は編集長をしていた。絵を描く時間などなかった。

この兄が、早稲田に進学し、私は東北大の美専に進んだ。美専には各高校の美術部で活躍した個性派が多く、六起会を作って研鑽に励んでいた。当時、まだ、美術に疎かった私は、杉村・大宮司先生に構図や彩色について、さんざん注意を受けたものである。

美専には５人の女性がいたが皆、明るく勤勉だった。美術棟に近い音楽棟（音楽専攻）には、沢山の女子学生がおり、華やかで、未来への夢があった。音・美の学生男女は仲が良く、笑い声が絶えなかった。

私は、兄の勧めもあり、美専２年を終えて、早大商学部３年生に編入し、しばらく仙台との縁は切れた。早大では、新聞経営ゼミを専攻し、大学卒業後、仙台の新聞社に就職し、広告マンとなった。グループ展の案内を見るたびに、絵をふたたび描く意欲が出て、今は、４つの絵画グループの世話役をするようになった。

ある日、芸協展の会場で私に挨拶する女性がいた。早大時代、帰省の折、幾度か話をしたことのある東北大音専の同級生だった。かつてのロマンチックな思いが甦ったが、彼女は立派な家庭を持ち、ご主人と幸せそうに暮らしているのだった。

恋愛百譚（4）

初任校での出合いと私たちのいま

高橋　正毅（31年入学）

大学を卒業した昭和33年の４月、桃生郡の船越小学校に着任すると、この学校に、とても美しい女教諭がいた。私も多少の好感をもってはいた。

聞けば、私と同じ教育学部の同窓とのこと。この女性は、多くの点でとても頼りになる人だった。やがて、この人と交際するに至り、６年後の昭和39年、結婚した。家内、経子（旧姓木村）である。

私の生家は、父の早世のため、困窮をきわめ、本来、大学進学など望むべくもなかったが、幸い、私は、二高から東北大に進み、大学生だった私は、特段できた弟３人に、進路を開いてやらねばと考えた。

家計の増収を目論み、教諭在職のまま、自宅で中学生対象の夜間の高校受験進学塾を開いた。これが大きな成果を得た。一時期、私一人で延べ250人に英数国を教え、成績中位でも、一高・二高への合格が可能なほど、高水準な塾に成長した。

弟３人の学費捻出を考え、公立学校教員を辞め、塾一本で生計を立てる決意を固めた。弟３人は、大学を終え、後にそれぞれ大企業の役員となった。

家内の内助の功は大きく、この進学塾はますます栄えたが、不動産、金融の仕事も始め、２男１女の３人の子どもの訓育にも心をくだいた。

「学問を大切に、ひろく人のためになる仕事をしてほしい」との、親の願いを入れてくれてか、３人の子どもは、医師として活動している。（注）

私は、いま、長男が経営する専門病院の事務長として、財務や税務に関する事項を担当する現役の事務屋である。

私の趣味は将棋。アマ５段。日本将棋連盟宮城県支部連合会顧問、元会長。60歳から、家内と水泳を始め、マスター大会にも出場。現在、80歳。

（注）長女・美香子氏、鶴岡共立病院副院長、終末期医療。
長男・昌宏氏、白石たかはし内科クリニック院長（東北大医卒）
次男・芳久氏、帝京大准教授（東大医卒）、病理学。

恋愛百譚（5）

初恋のころ

斎藤　敏行（33年入学）

高校時代、真正面から、女子高生が沢山歩いてくるような時、私は、道の端を小さくなって歩いた。女子高生たちは、私をからかうように、くすくす笑いながら通り過ぎて行ったものである。はにかみ屋だった私にも、実は異性への憧れは人並以上にあり、期待をもって東北大に入った。

しかし、当時の大学には女子学生は数えるほどしかおらず、構内はどこも殺風景だった。

ある日、高校時代の級友から、美術専攻に入らないかとの誘いがかかった。美術には、女子が３人もいるという。

私は、中学校の頃、美術が好きで、絵をよく描いていたが、高校では、化学部に属し、美術からは離れていたのだった。

大学入学後、専攻を決めるとなると、美術が、もっとも順当な選択肢の一つのように思えてきた。

２年生になって、美専に入ってみると、確かに女子は３人いた。しかし、この３人は大人びていて、私より年上のような風格があり、私の恋愛の相手には似つかわしくなかった。

しかし、次の年も、その次の年も、４～５人の女子が入ってき、こうした後輩たちとの山登りやピクニックでは、やっと大学生らしい男女の交流の経験ができた。そして、この中に密かに心に思うひとを見つけた。

卒業の年、郷里の石巻の公立学校に就職が決まったが、この人のいる仙台を離れがたく、恩師に相談して、急遽仙台の学校に着任できるよう、計らってもらった。

しかしながら、これは、私の単なる片思いに終った。私は、その人に、一切告白もしないまま、もう、半世紀も時間が経過した。

恋愛百譚（6）

燦燦と二人

渋谷　興宏（33年入学）
渋谷　康子（33年入学）

昭和33年、東北大学教育学部入学の同期会を「燦燦会」と呼んでいます。この年は学科専攻を問わず一括入試を行ったので、美術専攻の私たちは実技試験なしの唯一の学年となりました。

それ故か、開校以来、一番絵が下手な学年と言われています。しかし、同期の仲は良く、現場から戻り後期編入した山岸俊夫さんを会長と呼び、川内の美術棟前の芝生でお弁当を食べたり、相撲をとったりと美専は仲がいいと言われていたようです。「恋」の匂いは青空のもと、風に飛ばされていました。

石膏デッサンの時間には大宮司正一先生（グーチャン）に「夕べの天ぷら煮たようだ」と酷評されつづけ、やがて60年安保の時代に入っていきます。デモに明け暮れ授業に出てこない仲間も出てきました。

卒業後３年、私たちは杉村惇先生の媒酌で結婚し51年を迎えます。

絵の方は「仙台の四季を描く絵の会」を中心に描き続けています。「広瀬川」をテーマに描き続ける興宏、「彫刻のある街仙台」がテーマの康子です。

他に、市民センター水彩画サークル講師、障害者施設「こまくさ苑」の陶芸ボランテイアなどの活動があります。

今年は母の３回忌にあたり「父母の満州、私の満州」を興宏の絵と文、康子の短歌で出版しました。

戦後70年を過ぎて、ようやく〈忘れられた満州、隠された日中戦争〉ということが高齢の方々によって語られ、関係の本も出版され歴史の事実が明らかになってきました。昔の生徒たちに同級会で満州の本の話をしている８月です。

恋愛百譚(7)

夢多かりし学生時代

桜井　善悟（39年入学）

福島県伊達郡に生まれ、中学時代は、学年のトップだったが、高校では地味な成績でやっと卒業できた。当時は、男女交際など考えたこともなかった。卒業の年、級友と東北大を受け、合格したら、「久々の東北大２名合格」と沸き立った高校の先生方は、職員室で乾杯してくれた。

当時、東北大には、兄が法学部の３年生におり、この兄のリードもあり、寮生活や川内教養部での毎日は快適であった。

さて、私も年頃になっていたので、周囲の女子学生が美しく感じられ、悩ましくさえ思われ始めた。

大学生になって高揚した気分もあり、何人かの女子に交際を打診してみたが、なかなか良い答えをもらえなかった。

青年だった私の思いをよぎる女性は数多かったが、中でも同じ専攻の先輩Ｓさんが、究極の人として、つねに、私の心を占めていた。

Ｓさんが卒業する年の追い出しコンパの席上、すでに、かなり酩酊していた私は、末席から、卒業生の居並ぶ上席に、なだれ込むように、進み出、Ｓさんの前にどかっと座り込み、両手をついて、嘆願するような調子で、叫んだ。

「Ｓさん。おらあ、あんたが好きだ。好きでならねえ。おらと付き合ってけろ」

このＳさんへの申し入れも、不成功に終わったが、公のコンパの席上、堂々と思いを意中の人に告白した私の勇気は級友たちからは絶賛された。思えば、良き時代であった。

こうした数々の試行錯誤があって、今の家内との出会いがあり、幸福な現在の家庭生活がある。感謝してやまない昨今である。

恋愛百譚(8)

恩師の夢を受け継いだ、北方のロマン

太田　將勝（39年入学）

東京の出身高校の教頭は、私が東北大に進むことを特段喜んでくれた。この方は、世界史が担当で、東大時代、民俗学に没頭し、学究になりそこなった、今でいう民俗学オタクであった。殊にアイヌ人やアイヌ文化に心酔し、本人は行ったこともない、東北や北海道に異常な憧れを抱いていた。

「アイヌはコーカサス民族（白人）。少数民族の孤島。アイヌ文化を守るのが、我々の使命」が師の持論で、私の大学在学中に、仙台における、大和民族とアイヌ民族の混血度合をつぶさに調べよとの課題の下命まであった。

川内の教養部や市街地を彷徨しても、メノコ風美少女には、ついぞ、行き当ることはなかった。諦めていた頃、美専の学生控室に、小柄ながら、眼の大きな、メノコ風の先輩Ｙ嬢が現われた。

恩師から聞いていた北方の女性とは、こういうのをいうのかと暫し嘆息。密かに身震いしたが、意識すればするほど、その人の側に近づくのが精いっぱいで、話しかけるなど到底できるものではなかった。

別の日、偶然Ｙ嬢と学生控室で二人だけで向い合せに座ることになった。誰もいなかった。決死の思いで私は、第一声を発した。

「私は、アイヌにあこがれています。Ｙさんは、アイヌ的ですね。」

Ｙ嬢の反応は、不快そうではなく、拒絶的ではなかったが、「なんで、私がアイヌなの？」と怪訝そうに詰め寄ってきた。私はドギマギし、その場にいたたまれず、恥ずかしさの余り、室外に飛び出した。

この数年後、このＹ嬢に面影の似ている今の家内と一緒になった。思えば、私の息子も娘もややアイヌ的風貌ではある。

同窓会仙台支部総会講演2015.11.15（要約）

「回想の百周年と同窓会」

前教育学研究科長・前教育部長　細川　　徹

私が教育学部長に就任した2007年（平成19年）は、東北大学百周年の年でもあり、それに伴って同窓会との関係も密になった年でもありました。

東北大学は、この年の６月に創立100周年を迎えました。明治40年（1907）６月に東北帝国大学が創立されましたが、皆さまご存じのように教育学部が設置されたのは昭和24年（1949）の新制東北大学となってからです。旧帝大では唯一、教員養成課程を持つ教育学部でありました。

百周年を迎えるにあたって様々な準備がありました。執行部（総長、理事他）から、大学全体の取り組みの１つとして同窓会との連携強化が打ち出され、各学部はその進捗状況を報告するように求められていました。

私が考えたのは次の３つのことでした。第１に、同窓会名簿を点検して必要な修正や追加を行い改訂版を出すこと。第２に、同窓生の中から社会で際立った活躍をしている方を探して百周年にふさわしい講演会を催すこと。第３に、同窓会の顧問に皆さんが納得するような方を迎えることでした。

まず、第２の点ですが、これは銭谷眞美さんにお願いすることにいたしました。銭谷さんは昭和24年秋田市のご出身で、現在は東京国立博物館館長を務められているとお聞きしております。銭谷さんは東北大学教育学部卒業後、文部省に入省され、文化庁次長、生涯学習政策局長、初等中等教育局長を歴任され私が学部長となった平成19年に文部科学事務次官に就任されました。お辞めになったのも私の学部長退任の時と同じ平成21年でした。

講演会は翌年３月に仙台東急ホテルで盛大に行われ、学生から名誉教授の先生方まで多くの方が参加されました。

次に、藤井黎さんに顧問をお願いしたことです。藤井さんは、昭和５年岩手県釜石市のご出身で、昭和28年東北大学経済学部卒業後、河北新報社に入社されました。ところがまもなくお辞めになり教育学研究科修士課程に入学されました。

大学院修了後は仙台市役所に勤務され、昭和54年に教育長、平成２年に仙台市教育委員会教育長を務められ、平成５年、仙台市長に就任されました。３期を務められた後、平成17年に退任されましたが、私どもの様々な申し出をいつも快くお引き受けいただき、大変お世話になりました。人としての幅広い魅力があり、人と人をつなぐお方でもありました。ところが、平成22年に急逝され、誠に残念です。

さて、最後に同窓会の名簿の件ですが、学部長当時に各地の卒業生から「同窓会支部を作りたい」という問い合わせがあり、仙台、関東（東京）、北海道だけでなく、全国に同窓会ネットワークを作れたらということで、名簿の点検作業を専任者を置いて始めました。しかし、これがなかなか思うように進まず、とうとう私の任期中にはできませんでした。おそらく個人情報保護法の壁や、同窓生意識の希薄化などがあったのだと思います。

最後に、私が東北大学を辞めた後のことをお話して、本日の話を締めくくろうと存じます。

以前から温めていた沖縄に関する研究を再開したいと思っております。これまでの専門とは異なり何とも覚束ないのですが、多くの方に支えられてのんびり進めていこうと思っております。このきっかけは、学部長退任後のサバティカルで琉球大学にお世話になった際、21世紀おきなわ子ども未来プロジェクトに関わったことでした。今はこれからの展開に少しわくわくしているところです。

それでは、皆さまもどうぞお元気でお過ごし下さい。本日は有難うございました。

平成27年度　仙台支部事業報告

顧問会・監査会 27年４月18日(金)	**協議事項**	平成27年度第36回支部総会時講師の依頼について　②仙台支部の今後について　③会員増について　④その他　監査会も同時開催
第１回支部役員会 27年５月９日(土) 会場　文系総合研究棟 時間　午前10時～	**報告事項**	①平成26年度仙台支部事業報告・会計決算報告及び承認について ②平成27年度仙台支部事業計画案並びに会計予算案について ③平成27年度仙台支部第36回総会・講演会・懇親会原案等について ④「会報19号」発行について ⑤役員・年度理事改選について ⑥その他
第２回支部役員会 27年８月22日(土) 会場　文系総合研究棟 時間　午前10時～	**協議事項**	平成27年度仙台支部第36回総会運営について ①平成27年度講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会の役割分担について ③第３回支部役員会における理事の役割分担 ④その他「会報19号発行」・総会案内状発送事務協力依頼(9月26日(土)10:00～)
第36回仙台支部総会 27年11月８日(日) 会場ホテルＪＡＬシティ仙台	**講演会** **懇親会**	講師　細川徹先生(前教育学研究科教授)・演題「回想の百周年と同窓会」 講師先生の教え子も参加
第３回支部役員会 28年１月16日(日) 会場ホテルJALシティ仙台	**内　容**	①第36回支部総会の反省及び会計報告 ②平成27年度事業及び会計中間報告 ③平成28年度役員会・総会日程等協議

平成27年度　東北大学教育学部同窓会仙台支部　会計決算報告

平成28年３月31日

Ⅰ　一般会計

1．収入の部

(△ 予算額との比較減　単位:円)

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会費	350,000	319,260	△ 30,740	292人分
繰越金	351,041	351,041	0	
雑収入	259	1,754	1,495	利子、総会懇親会残
合計	701,300	672,055	△ 29,245	

2．支出の部

(△ 予算額との比較減　単位:円)

		本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
事務局費		106,000	87,348	△ 18,652	
	印刷費	60,000	59,210	△ 790	封筒、葉書等印刷
	消耗品費	15,000	1,352	△ 13,648	用紙、インク等
	備品費	3,000	0	△ 3,000	文具類
	事務手当	25,000	25,000	0	5,000×5人
	雑費	3,000	1,786	△ 1,214	送金料、印字代
会費振込手数料費		25,000	24,220	△ 780	会費振込手数料
会議費		50,000	42,118	△ 7,882	役員会他
通信連絡費		110,000	70,820	△ 39,180	総会案内等
会報費		75,000	73,720	△ 1,280	
	印刷費	65,000	63,720	△ 1,280	会報印刷代
	会議費	10,000	10,000	0	会報発行委員会会議
総会費		60,000	35,000	△ 25,000	
	会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
	表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
	装飾費	5,000	0	△ 5,000	
	講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費		10,000	0	△ 10,000	弔電
雑費		12,000	8,608	△ 3,392	手土産代他
予備費		153,300	38,000	△ 115,300	旅費等
運用基金		100,000	0	△ 100,000	
合計		701,300	379,843	△ 321,466	

※収入総額672,055円－支出総額379,834円＝残高292,221円は(次年度へ繰り越します)

Ⅱ．運用基金

収入900,000円＋収入－支出０円＝差引残高1,000,000円(次年度へ繰り越します)

会　計　監　査

平成27年度東北大学教育学部同窓会仙台支部の会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ、整備が完全でありますことを報告いたします。

平成28年３月29日

監事　井本佳永　㊞
監事　吉野信武　㊞

平成28年度　仙台支部事業計画

顧問会・監査会
28年３月29日(火)
会場
東北大学文系総合研究棟

○平成28年度第37回総会時の講師依頼について
○仙台支部の今後について
○会則改正案、役員補充について
○平成27年度会計監査
○その他

第１回支部役員会
28年５月14日(土)
会場
東北大学文系総合研究棟
13時30分～15時30分

報告事項　平成27年度仙台支部事業報告・会計決算報告について
協議事項
①平成27年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認
②平成28年度仙台支部事業計画案並びに会計予算案について
③平成28年度仙台支部第37回総会・講演会・懇親会について
④「会報20号」発行について
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について
⑥その他

第２回支部役員会
28年８月20日(土)
会場
東北大学文系総合研究棟
10時00分～12時00分

協議事項　平成28年度仙台支部仙台支部37回総会運営について
①平成28年度記念講演講師・演題の確認
②平成28年度第37回総会・講演会・懇親会の役割分担について
③平成28年度仙台支部第３回役員会日程等について
その他「会報20号発行」　総会案内状発送事務協力依頼

第37回仙台支部総会
28年11月12日(土)
会場ホテルJALシティ仙台

総会
講演会　講師 長谷川啓三氏(元東北大学大学院教育学研究科教授) 演題(未定)
懇親会　(会場 文系食堂 15：15～)

第３回支部役員会
29年１月７日(土)
会場ホテルJALシティ仙台
17時00分～

内容
①第37回支部総会の反省及び会計報告
②平成28年度事業及び会計中間報告
③平成29年度総会日程等協議

平成28年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計予算

Ⅰ　一般会計

1．収入の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
会費	350,000	250,000	△ 100,000	250人
繰越金	351,041	292,221	△ 58,820	
雑収入	259	279	20	利子等
合計	701,300	542,000	△ 158,800	

2．支出の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

		前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
事務局費		106,000	100,000	△ 6,000	
	印刷費	60,000	60,000	0	資料、葉書等印刷
	消耗品費	15,000	10,000	△ 5,000	用紙、インク等
	備品費	3,000	2,500	△ 500	文具類
	事務手当	25,000	25,000	0	5,000円×5人
	雑費	3,000	2,500	△ 500	送金料、印字代
会費振込手数料費		25,000	25,000	0	会費振込手数料
会議費		50,000	50,000	0	役員会他
通信連絡費		110,000	100,000	△ 10,000	総会案内他
会報費		75,000	75,000	0	
	印刷費	65,000	65,000	0	会報印刷代
	会議費	10,000	10,000	0	会報委員会
総会費		60,000	60,000	0	
	会場費	20,000	20,000	0	会場使用料
	表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
	装飾費	5,000	5,000	0	
	講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔費		10,000	10,000	0	弔電他
雑費		12,000	10,000	△ 2,000	手土産代他
予備費		153,300	112,500	△ 40,800	旅費他
運用基金		100,000	0	△ 100,000	
合計		701,300	542,500	△ 158,800	

Ⅱ　運用基金

1．前年度繰越　1,000,000円
2．収　　入　100,000円
3．支　　出　0円
4．差引残高　1,100,000円(ゆうちょ銀行定期預金に)

会則改正について

本会設立以来37回目の総会を迎えることになりますが、近年会員の減少が続いております。役員会や総会の度に、若い会員の増をいかにするべきかを検討してきました。

昨年の総会でも同窓会の今後について話題が上がり、会員の範囲拡大を基にした会則の改正について会則検討委員会に諮問することになりました。早々の原案の提案を受け、顧問会、役員会での協議を経て、後記の案をまとめ、総会に諮り承認をいただくことになりました。

改正に当たって設立の経緯を振り返り、当時の故塚本哲人学部長の支部全国展開の思いを受けた当時の藤井黎仙台教育長が、市立学校長三浦氏に設立の労を依頼、氏は同期の富塚氏らを誘い、設立準備委員会を発足し、設立に至った経緯が話題となりました。

設立当初のお二人の意思を継ぐ意味でも、仙台圏居住者と趣旨に賛同する者という会員の範囲を拡大し東北支部として新潟を含む東北地区居住者の教育学部同窓生を新名称の支部の会員として迎えていこうと話し合われました。承認いただければ、今後は各年度の同期の方々を中心に働きかけていければいいなともはなしあわれました。

現　会　則

東北大学教育学部同窓会仙台支部会則

［名称］

第１条　この会は、東北大学教育学部同窓会仙台支部と称し、事務局を事務局長宅に置く。

［会員］

第２条　この会の会則は、原則として仙台圏に居住する教育学部同窓生及び本会の趣旨に賛同する者とする。

※第３条から第11条までは改正せず。

［会則改正］　現会則にこの条項なし

［雑則］　現会則にこの条項なし

フォトギャラリー

東北大学新聞部コンパ（昭和32年）

改　正　案

東北大学教育学部同窓会東北支部会則

第１条　この会は、東北大学教育学部同窓会東北支部と称し、事務局を事務局長宅に置く。

第２条　この会の会員は、原則として東北地区（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・新潟県）に居住する教育学部同窓生、学生、院生及び本会の趣旨に賛同する者とする。

［会則改正］

第12条　会則の改正は、会則検討委員会で検討し、役員会の議を経て、総会の承認を受ける。

［雑則］

第13条　会則に定めるもののほか、同窓会の運営に関し必要な事項は、役員会で定める。

附則　この会の会則を平成28年11月12日名称及び一部改正

施行は平成　年　月　日からとする。

平成28年度 総会のご案内

平成28年度の東北大学教育学部同窓会仙台支部の総会を下記の通り行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

1．日　時　平成28年11月12日（土）　午後１時
2．会　場　東北大学文系総合研究棟大会議室
3．日　程
　午後１時～　　総　会
　午後１時50分～３時　講演会
　講演会終了次第　　懇親会
　　・会費（5,000円）
　　・当日お納め下さい。
4．お願い　同封の返信用葉書にて参加のお申し込みをお願いします。
　　11月５日（木）までにご投函下さい。
5．演　題「震災後のカップルセラピーについて」
6．講　師　長谷川啓三氏

昭26.1　大阪府に生まれる
昭59.3　東北大学大学院教育学研究科教育心理学博士後期課程 修了 教育学博士
「知覚－運動の相互規定性に関する発達的研究」
平7.4　東北大学助教授
平10.4　同教授
平22.4　教育学研究科附属　臨床心理相談室開室室長（～27. 3まで）

《会費納入のお願い》

年会費1,000円

平成28年度分の会費納入につきましては、総会・講演・懇親会ご出席の際に、受付で直接ご納入いただきますよう、お願いいたします。（振込用紙での送金には、130円程度の郵送料が必要となり、当方負担のこの郵送料軽減のためにも、直接お支払いただきますなら、大変助かります）

ご郵送いただきます場合、同封の振込用紙をご使用ください。

「会報」のあり方をめぐって

大学同窓会「会報」はどうあるべきかを、しばし委員有志で語り合った。

同窓生には、志を得た人、一定の成果を喜ぶ人、失意の人、自由人を装う人など、一見様々である。俗的な毀誉褒貶や過去一切から離れて、学生時代に戻れることが、同窓会のさながらに持つ意義であり、魅力であり、多くの諸氏の集まる所以・動機であろう。

今を去る50年前、学生だった筆者は、のちに本学部の学部長をされた、当時30歳のＨ氏に、同氏担当の教養部教育心理学の受講を機縁に偶然知遇を得ることとなった。氏は、私と同郷で重層した縁があり、信用していただき、日常様々な機密に拘わる苦労話まで伺った。

Ｈ氏が、当時、よく言われたことは、「多くの人は、肩書だけで、人を見る。」 一元的な格付け等級の物差しで人を見、物事を決める傾向が強いとのことだった。「社会一般は、それぞれローカルな権威主義に蔽われており、しかつめらしいばかりで内容がなく、愚劣である」 そうした中にあって、大学は、あらゆる俗的な、権威や思惑から独立した、リベラルな自由の府でなければならないとの仰せだった。これは、本質的な提案であろう。

大学の同窓会は、個々が過去のしがらみから解放された、自由なリベラルな集まりであってほしい。多くのメンバーの参加を期待するならば、多くの人々に好感をもたれ、喜んで、進んで入会してもらえるような環境と装置を配慮することが必定だろう。会報は、そうした気分を表明し、広報するに最も有効な手立てであろうかと思われる。

校長・教育長・国立大学教授（教授は、県教育長より、格付等級上は上位になる）などの過去一切の位階は捨象し、徹底した平等の理念に立つべきではなかろうか。

世は女性の時代と言われるように、真に自由でリベラルな気風が横溢しつつある。本会報は、同窓会の一隅にあって、そうした空気を高揚するに有効な一石になるならば、幸いである。会報発行委員会（編集子）

本部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局長　神谷　哲司（Ｈ２年入学）

本部同窓会は、現在「なつかしむためではなく、現役学生にタスキをつなぐための同窓会」をキャッチフレーズに、新たな体制づくりに取り組んでいるところです。

平成27年度には、同窓会事業として、例年通りの事業（(1)卒業・修了学生の祝賀会援助事業、(2)現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、(3)仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業）に加え、新たに「キャリア支援セミナー」と「OB・OG懇談会」を開催いたしました。

「キャリア支援セミナー」は９月30日の後期授業のオリエンテーションの日に、「進路選択いろはのい！」と題して開催されました。事前の各学年のオリエンテーションで告知をしたこともあってか、40名近い学生さんにご参加いただき、関心の高さがうかがえました。本学の高度教養教育・学生支援機構キャリア開発室室長の猪股歳之准教授（教育学部平成２年入学）に、近年の変化の激しい就職動向や教育学部学生の就職・進学状況などについてお話しいただきました。平成28年度も同様に開催する予定でおります。

また、「OB・OG懇談会」は、平成２年度、ならびに平成６年度入学生の同期会がたまたま開催されたのに合わせて、現在働き盛りのこれらの学年のこれまでのキャリアの道筋（トラジェクトリ）について、現役の学生さんが話を聞くというスタイルで開催されました。実際に教育学部を卒業した諸先輩の生きざまに触れ、現役学生のみなさんも大いに学ぶところがあったようです（なお、参加したOBならびに学生の感想が前の号（支部会報vol.19）に掲載されています）。

この企画に関しましては、昨年度のように、実際に同期会が開催される際にあわせて企画をすすめるのが実際的だと思われますので、今後具体的な開催の予定は今のところありません。ただし、同窓会事務局いたしましては、今後同期会などを企画されているみなさまに対しまして、現役学生との懇談会の場を設けるお手伝いをしたいと考えております。みなさまぜひともご協議の上、同窓会事務局（sed-alumni@sed.tohoku.ac.jp）までご相談いただけますと幸いです。

また、同窓会の根幹をなす名簿の整理に関しましても、教育学同窓会ウェブページでの登録を進めております。ご登録がまだの方、住所の変更などがあった方は、ぜひとも同窓会ウェブページ（http://www.sed.tohoku.ac.jp/alumni.html）よりお願いいたします。名簿の取り扱いや、今後の位置づけなどに関しては今後さらに議論が必要であるとは認識しておりますが、それらの議論と並行しつつ、情報収集は進めていく所存でございます。

平成28年度の同窓会事業といたしましては、「キャリア支援セミナー」を例年の事業に加えて、さらに新たな事業を計画し、準備を進めているところです。いずれも、冒頭に示しました、「現役学生にタスキをつなぐ」ことを念頭に置いた事業でございますが、なによりもそこでは、「なに」をタスキに託すのかが問われることになろうかと思われます。「なにを託し、なにを伝えていくのか」それは、教育学部の同窓生であるみなさまが、自らのキャリアを振り返りつつ、現役学生に送るエールとして紡がれるものになろうと思われます。人的資本に乏しい事務局ですので、身のこなし軽やかに諸事業を推進することも能いませんが、そうした体制の再構築も含めて、今後ますます、卒業生と現役学生とをつなぐ同窓会事務局でありたいと思っております。なにとぞ、引き続きみなさまのご厚意とご助力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

仙台支部役員名簿

（平成27. 11. 8～平成29総会時）

顧　問	25	髙橋　公正	26	佐々木一洋
	28	永野　昌一	31	雪江　美久
	36	岡﨑　忠	36	阿部　琢也
	37	關口　隆	大学	高橋　満
支部長	39	渡邉　宣隆		
副支部長	39	軍司　啓	39	鹿野　毅
	50	吉川　邦彦		
参　与	24	富塚　英雄		
〃	29	石森　幸子	31	枡澤　怜
〃	32	佐々木亀三郎	33	佐藤　健仁
〃	35	伊藤　昭	39	大浪　榮一
〃	元学部長	菅井　邦明	元学部長	菊池　武剋
〃	元学部長	荒井　克弘	元学部長	細川　徹
〃	元学部長	宮腰　英一	元学部長	本郷　一夫
理　事	24	佐藤　弘		
〃	25	髙橋　公正	25	静田　一
〃	26	池田　和夫	26	三浦　貞昌
〃	27	青木　敏浩	27	阿辺　博亮
〃	28	小關　幸生	28	桂島　新一
〃	29	市川　宏	29	佐藤庸太郎
〃	30	千葉　俊雄		
〃	31	今野　健	31	福井　正子
〃	32	煤田　泰蔵	32	村上　重作
〃	32	竹澤錬太郎		
〃	33	金岡　昭房	33	山形美也子
〃	34	工藤　忠久		
〃	35	泉　豊	35	岡本　幸子
〃	36	小野　惇夫		
〃	37	賀屋　義郎	37	中川　典雄
〃	38	文屋　優	38	文屋　國昭
〃	39	朴澤　徳昭	39	太田　將勝
〃	40	吉野　信武		
〃	41	安住　裕	48	櫻田　博
〃	50	別府　成裕		
〃	51	日下　毅	51	佐藤　邦宏
〃	52	白澤　利広	54	南城　一之
〃	57	川上　芳夫	H 4	吉植　庄栄
監　事	40	吉野　信武	大学	青木　栄一
大学理事		後藤　武俊		

事務局・各委員会

事　務　局				
事務局長	39	軍司　啓		
事務局補佐	37	關口　隆		
会則検討委員会				
委員長	31	枡澤　怜		
副委員長	31	今野　健		
委　員	25	静田　一	28	桂島　新一
	39	軍司　啓		
名簿作成委員会				
委員長	33	金岡　昭房		
副委員長	35	泉　豊		
委　員	25	髙橋　公正		
会報発行委員会				
委員長	39	太田　將勝		
副委員長	31	福井　正子		
委　員	38	文屋　優	50	吉川　邦彦
会計委員会				
委員長	29	石森　幸子		
副委員長	39	朴澤　徳昭		
委　員	35	岡本　幸子	39	岩井　良樹

後　記

筆者の知人の父に、花森安治がいた。文章は、意味のあるもの。方向性が明晰なもの。論理的なもの。読んでいて、面白いものでないと、失格だときびしく仰せだった。この教えを参考にしたい。

会報発行委員会（編集子）

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑２－７－18

軍司　啓　TEL 070-5322-3322